京城日報　國威宣揚　七月十八日（日）夕刊　發行所 京城府太平通一丁目 合資會社 京城日報社

# 中央軍北上の誘致する一切の責任は支那側に

## 駐在武官 大城戸大佐の重大警告

【南京十七日同盟】南京駐在陸軍武官大城戸大佐は十七日午後何應欽又は適當に何應欽を代表する人物に對し會見を求めたが、何應欽は公の故を以て面會を拒絶し、軍政部次長曹浩森が代つて會見した、席上大城戸大佐は口頭を以て次の如き重大警告を行つた

國民政府は梅津、何應欽協定を無視し中央軍を北上させ、又は空軍を行使することあらんか、日本軍は必要と認むる措置に出づることあるべく、その結果如何なる重大事態が發生してもその責は全く國民政府にあり、日本軍の關知する所でない

右通告後大城戸大佐は次の如き公文を手交した

> 昭和十年五月一日より七月九日に至る期間において在北支日本及び中國兩軍事當局間に成立した諸諒解事項を無視し、中央軍（航空兵力を含む）を北上せしめ又は航空兵力を行使せんとする態度をとることある場合は、日本軍はその適當と認むる處置に出づることあるべく、右により發生することあるべき一切の事態に關する責任は國民政府にあることを茲に通告す
>
> 昭和十二年七月十七日
>
> 帝國陸軍南京駐在武官　歩兵大佐　大城戸三治

# 解決履行を督促し

## わが態度を端的明確化

### けふ午後陸軍省より談話發表

【東京電話】十八日午後零時十分陸軍省談話發表【陸軍當局談】支那駐屯軍は事件發生以來事態不擴大、現地解決と忍び難きを忍び、異常な努力を續けてゐるのであるが、支那側は七月十一日既に解決條件に調印しながら今日までこれを誠意的確に實行するの誠意を示さざるのみならず、**一方南京政府に於ては南方にあり兵團を逐次北上せしめる等、對日開戰準備を進めるの兆歴然たるものがある**ので無期限に支那側の誠意實行の日を待つことは事態を不安定にし、駐屯軍の自衛及び居留民保護上危險を増加することになり、延いては**徒らに時局を擴大するの結果にな**るので、我が方はこの際支那側に對して解決條件を速かに履行せんことを督促して爾後に於ける我方の態度を端的明確ならしめるの要になさんとしある次第である

# 大使館の全武官

## 訓令中心に重大協議

【上海十七日同盟】帝國政府の重大訓令は十七日午後七時陸軍武官室に到着、同時に南京駐在武官大城戸大佐より喜多武官との會見内容の電話報告あり、野参武官は直に大使館邸に楠本、水村、宇都宮の全武官の參集を求め、右訓令を中心に重大協議を遂げつゝあり、武官室は燈光煌々として極度に緊張してゐる

## 余漢謀廬山へ

【廣東十八日同盟】廣東綏靖公署主任余漢謀は十八日午前八時百六師長黃濤同道自家用機で廬山に向ひ蔣介石と會見、南支防衛、對日作戰につき協議を行ひ指示を仰ぐことになつた

# 激越、抗日を叫ぶ

## 蔣介石も戰意を披瀝

### 第二次廬山談話會の討議

【上海十八日同盟】十七日午前九時より廬山牯嶺に開催された第二次廬山談話會は蘆溝橋事件を中心とする日支關係が討議の中心となり、會議に出席の各代表は激越なる口調を以て抗日を叫び抗日意見が全く場内を支配したまづ汪兆銘は凡そ半時間に亘り三中全會の議題を報告し、次いで蔣介石は蘆溝橋事件の眞相とその重大性を説明したる後

政府は三中全會の決議に基き國内的には統一を、國外的には主權鞏固、國土保全の確固たる方針を以て進んでゐるが、若し外敵侵入し國土を侵略することあらば斷然立つて戰ふの決意ありと政府の方針を說明し

この重大時局に際し全國民は官民一致して國難に當れ

と約四十五分に亘り確乎たる國民政府の決意を披瀝すれば、會場は極度に興奮、拍手は暫く鳴りも熄まず、次いで胡適を初め各出席者は

今次事變は北支は勿論支那全體の運命を決する重大事なれば、國民は二十九軍を信賴しこれを援助せんことを期待する、政府は速かに確固たる方針を立て即日これを遂行に移して七月八日以前の狀態に回復せよ

と希望意見の發表があつた

# 外交部緊張

## 直接衝突の危機を懸念

【南京十七日同盟】支那官邊では我が大城戸大佐の通告を以て從來中心として動いてゐた事件は、今や梅津、何應欽協定を繞り中央と日本軍との直接衝突の危機を增すものとして事態の惡化を重視し外交部は緊張を呈してゐる

# 華西火藥庫爆發

## 死傷四百十餘名を出す

### 對日戰に備へ晝夜兼行中の慘事

【上海十八日同盟】四川省重慶對岸江北にある華西火藥工場は對日戰のため連日連夜火藥製造を續けてゐたが、十七日午後三時突如轟音とともに爆發し工人七十四名、警備兵約四十名爆死、その他三百餘名の重輕傷者を出したが現場は死體や肉片が累々として慘鼻を極め、附近の家屋は倒壞し慘な光景を呈してゐる

# 洛陽に飛行隊集結

【南京十七日同盟】鄭州來電によれば北方作戰空軍根據地と決定した洛陽では、續々南方より飛行隊を集結する一方空中作戰の準備を急いでゐると傳へらる

# 共產黨首腦部

## 抗戰命令を仰ぐ

【天津十八日同盟】確實なる消息によれば朱德、毛澤東等共產黨首腦部は蔣介石に對して左の電報を打電した

日本に對して國民齊しく憤激する所で吾等は至誠を以て一致團結これに當るにつき、抗戰命令を發せられよ、我等は所屬部隊を率ゐて盡忠報國、國防第一線に起たん

蔣介石はこれに對して

爾等の誠意を喜ぶ適當な時機到れば爾等を重用すべし

と返電した、右は國民政府と共產黨の完全な聯繫を語る最も有力な證左として今後共產軍の動きは注目される

# 廿九軍代表

## 蔣宋と會見

### 指示を受く

【上海十八日同盟】冀察上海駐在辦事處長戈定遠は十七日早朝廬山に到着、同八時蔣介石に面會し第二十九軍を代表して天津における日本側との交涉經過及び冀察政權並に第二十九軍の動向に關し詳細報告した後蔣介石の指示を受け直に宋哲元にその旨報告するところあつた

## 蔣振瀛歸國

【上海十八日同盟】支那側情報によれば第二十九軍の要人蔣振瀛は外遊の途、イギリスに於て北支事變の勃發を知り豫定を變更して去る十四日ロンドン出發歸國の途についたと

# 義勇兵を請願

## 奉天朝鮮青年團で可決

【奉天十八日同盟】北支事變の進展につれ各方面に異常な衝動を與へてゐるが、在奉天朝鮮人青年團は十八日午後四時からヤマトホテルにおいて半島人有志時局懇談會を開催し、滿場一致を以て帝國政府に對し半島人義勇兵の募集を請願する決議を可決、その電報を首相、陸、海、拓相、貴衆兩院議長、朝鮮總督府、關東軍、支那駐屯軍司令部に宛て打電することになつた



# 全國青年團

## 宣言を決議

【東京電話】大日本聯合青年團臨時局聯合大會は十八日午前十時より神宮外苑日本青年館で全國各青年團代表、東京府市代表團員など二千百名出席の下に次の宣言を決議せる後一時三十分近衛首相を永田町の私邸に訪問、同日の五相會議の經過を報告した

宣言

吾等三百萬青年團員は現下時局の重大なるに鑑み崇高の使命を確認し如何なる難局に直面するとも常に烈々たる愛國の至誠に活き更に皇道の高揚を作興し堅忍自重各自の職責を盡し然も國家の大事に臨みては即時義勇公に奉じ以て日本青年たるの本分に邁進せんことを期す

昭和十二年七月十八日

大日本聯合青年團臨時大會

# けふ日曜日の五相會議

## 引續き臨時閣議

【東京電話】北支の情勢は益々緊迫をつげ事態は遷延を許さぬものあるので政府は十七日臨時五相會議に於て交涉促進の處置を決定し、引續き臨時閣議を開き（以下不鮮明）……帝國政府としてはあくまで決定方針通り事件不擴大、現地解決主義を堅持し支那側の約諾解決條件履行を督促し、これが實行を嚴に監視し事態の推移を注視し、あらゆる場合に處する萬全の方途を講じて支那側の出方を待つ

に意見一致し午後零時半散會し引續き臨時閣議を開き五相會議の結果を報告これを承認し、午餐を共にして午後二時散會した

## 首相に報告

【東京電話】風見書記官長は十八日……

# 時局への獅子吼

## 京城での第一聲

### 本社主催 非常時局大講演會

### 明夜七時府民館で

全半島二千三百萬人の眼は耳は擧げて北支の一點に注がれ、暗雲低く垂れ籠める一觸即發の雰圍氣に今ぞ！大和魂は燃焼するのだ、この愛國の熱意に燃える擧國一致日本の銃後の國民に非常時局を充分に認識せしめると共に進んで支那の現情を知らしめるために、本社は十九日午後七時から府民館大講堂において『非常時局大講演會』を開催し至急半島に呼びかけることになつたが、戰後は北支に活躍する皇軍の狀況や北平等の避亂その他を納めた生々しき『北支事變ニュース』映畫その他を上映する豫定である講師の

**二宮中將**（前朝鮮軍參謀長）

**深堀中佐**は現在朝鮮軍參謀で支那及びロシア通と知られ、今回の演題も『戰爭に於ける國民の覺悟』といふ

**神津中佐**（日本空軍協會支所長）は航空兵科出身で空界の權威であると共に東亞空界の研究者として知られ代空中戰と支那空軍』の演題で空軍の協力から空戰中を語り蔣介石の叫ぶ『救國空軍』による支那の新空軍の正體にも觸るべく

**韓相龍氏**（國東軍顧問）は『非常時局の半島氏の任務』と題し全半島氏にこの非常時局に處する半島民の覺悟を促す筈で、同氏が關東軍顧問となり軍事的知識を織りまぜての言々句々肯、大いに期待される

（當夜は相當に混雜すること、思ひ……）

# 大東民友會でも時局講演會

大東民友會では時局に對する正しき認識とそれに對する覺悟を全半島民に鼓吹すべく十九日午後七時半から鍾路キリスト教青年會館で北支事變大演說會を開催する

# 北支へ更に特派

## けふ趙鏞穆氏出發す

何時全面的衝突を見るかも知れないほど急迫した北支の風雲は新聞の使命を一層重大を加へるに至つたのでさきに本社記者藤井安正氏を特派、北平の風間、派遣と上海の赤尾特派員と協力忠勇なる皇軍の活動振りと其他の特殊事情の報道に萬全を期する事になり本社では更に十八日本社記者趙鏞穆氏を特派、前記三特派員と協力本社報道陣の強化を計る事になつた（寫眞は趙鏞穆氏）

# 拳銃と實彈

## 子供が發見

### 清溪川草原で

十六日午後六時半常盤町井上重利氏方で雇はれた拳銃と實彈は十七日夕京城府清溪川草原で遊んでゐた鍾路五ノ四六九金興福君（一）が發見、東大門署へ届出た

# 田代將軍遺骸

## 廿一日天津發

【天津十七日同盟】田代將軍の遺骸は十七日午後六時天津火葬場において茶毘に附された、遺骨は二十一日天津驛から内地に凱旋の豫定である

# デ杯米獨戰

## 單は一勝一敗

【ウインブルドン十七日同盟】本年度デ杯インターゾーン、アメリカ對ドイツ戰第一日は十七日午後ウインブルドンコートでシングルス二試合を挙行、成績左の如し

| | |
|---|---|
| フォン（獨） | 6-3 6-4 グラント（米） |
| クラム（獨） | 6-2 6-2 |
| バッヂ（米） | 6-1 6-3 ヘンケル（獨） |

## 天氣豫報（19日）

京城地方【今晩】雨【明日】……

仁川地方【今晩】雨が降つたり止んだり【明】雲時々雨

京城氣溫（十七日）最高二十九度五、最低二十度八（十八日）正午二十四度五

## 仁川の潮時（19）

滿潮　午前……　午後……

干潮　午前……　午後……

# 曉星雙紙（111）

田中貢太郎 作
河野通勢 畫

射狼（十八）

傳九夫のお嬢さんは主税と四郎兵衛の話してゐる室へ往つた。お嬢さんは主税に呼びかけた。

『旦那様、失禮でございますが、ちよいとお顔を。』

主税は怪訝らしかつた。

『また、お前か、今日は、どうした事だ。』

『四郎兵衛に旦那様は、お交際がお厭いと見えまして。』

『どんな客だ。』

お嬢さんは躊躇した。

『彼の、その、ちよいと。』

『さやうか、他の前で申されぬ客か、すると、別嬪か、別嬪なら何よりだが、二階のは、どうした。』

『お一人様はお歸りになりまして、お一人様に召しあがつていらつしやるさうで。』

『召しあがつてゐるのは浪人だらう、假奴の兄弟分のやうな奴だから、酒を見たらすぐは歸らない、それでは岡引の方が歸つたのか。』

『それでは彼の方は。』

『岡引だよ、拙者が遊び歩いてるのを嗅ぎつけて、ぐずりに來たのだが、知りあひの彼の浪人にとつちめられて歸つたのだ。』

『さやうでございますか、眞個に惡い奴でございますこと。』

『あんなのを蛆蟲と云ふのだ。』

『さやうでございます。』

『それでは、別嬪か何か知らないが、すぐ往くから、酒を出しておいてくれ、一ぱい飮ましておく方が、話がしやすい、どうだ、別嬪か。』

『別嬪でも有りません。』

『何處にゐる。』

『離屋でございます。』

『それでは、すぐ往くから、とにかく酒を出してもらはう。』

『承知いたしました。』

お嬢さんは出て往つた。主税は四郎兵衛を見た。

『いよいよ來られたやうだ。』

四郎兵衛は眞剣な顔をしてゐた。

『さやうでございます。』

『それでは、いよいよとつちめるか。』

『それは、もう、旦那様にお任せいたしますが、今もお願ひいたしましたやうに、くれぐれも怪我のないやうに。』

『その心配はいらない、物の勢ひで、變な事になるやうな事があつても、蚊に刺されたほどでも怪我はさせない。』

『どうか怪我をさせないやうにお願ひいたします、怪我さへしない事なら、わたくしも長い間苦しめられた、畜生でございます、どうかぎうといふ目に逢はして、思ひ知らせてくださいませ。』

『よいとも、赤恥をかかして、天罰の恐ろしい事を知らしてやる、が、それに就いて約束しておかねばならぬ事がある。』

『は。』

『拙者がお嬢さんをぎうといはしてゐる間は、どんな事があつてもその方は手出しもせずに、默つて見てゐてもらはなくてはならぬが、それはよいか。』

此處へお嬢さんが來た。

『お話がおすみになりましたら。』

『よし、さうか。』

主税はひよいと起つて四郎兵衛を促した。

『それでは、隣の室まで往きなさるがいい。』

『さやうでございませうか。』

『よいとも。』

そこで二人はお嬢さんに案内せられて離屋へ往つた。そして四郎兵衛は取附の室へそつと入り、主税は次の室へ入つて往つた。其處には、稲舗屋の主婦のお艶が膳を前にして孔雀のやうに坐つてゐた。

『これはお艶殿。』